

喜撰嶽は三室戸より一里ばかり異にして、櫃川村の山上にあり。こゝに岩崛ありて、これを喜撰洞といふ。此絶頂より喜撰法師雲に乘じて登天し給ふとぞ。「頓阿が井蛙抄に、喜撰が住家は三室のおくなりといひ。長明無名抄には、三室戸のおく甘余町ばかり、山中に入て、宇治山の喜撰が住ける跡あり、家はなけれど堂の礎などさだかにあり、これら必尋てみるべき事なりとかれり。又古今の序に、宇治山の僧きせんは、こと葉かすかにしてはじめをはりたしかならず、いはゞ秋の月を見るにあかつきの雲にあへるがごとし云々」